

Feeling excited

“Dance with Heart”
We are burning with enthusiasm
in creating national art for the new era.
The Kikunokai Dance Troupe
Chairperson : Satoshi Hata

日本のおどり

発行：舞踊集団 菊の会
〒161-0031
東京都新宿区西落合 2-21-23
03-5983-6001 (代表)

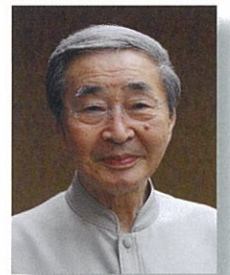
菊の会 京都八瀬研修所
〒601-1254
京都市左京区八瀬野瀬町 10
075-712-8701 (代表)

<http://www.kikunokai.co.jp>

Dancing from the heart



長唄「水仙丹前」



没後一年を期して願うこと

三隅治雄

早いものです。畑道代さんが亡くなられて、丸一年。その間、菊の会の皆さんは、泣いている時間も、振り返る時間もないほど駆け回りましたね。学校公演、海外公演、自主公演と既設のスケジュールをこなすほか、山積する事務処理、新しい組織づくりへの取り組みなど、汗みどろの日々であったろうと思います。が、さて、時は待つてくれません。プロの舞踊集団たるもの。公演スケジュールをどんどん埋めていかなければ暮らしが立ちません。暮らしを立たせるためには、当然、お客様が見たがる催しをどっさり用意しなければなりません。何度もしりपीターになっていただける魅力ある舞台をつくらねばなりません。過去、畑さんの個人技と、団員の熱気ある集団美で売って来た舞踊団です。それが、近年、ご病気の畑さんの代役を幹部の人たちが勤めて、腕を上げて来ました。畑さんは、いうまでもなく名人初代尾上菊之丞師の高弟で、古典舞踊の名手です。また、全国の民俗芸能を実習して、その舞台化と、邦舞・民俗芸能を総合しての舞踊劇の振付け・構成に抜群の才を発揮しました。その畑さんの役割を誰が果たすか？ 今度は、代役ではありません。本役です。

これはたいへんです。でも、新代表となった畑聡さん初め幹部の男性・女性の人々が、決然立って、わたしがその役を引き受けますと宣言するのを、わたしは見守りたいと念じています。ただ、そう言い切るためには、畑さんがまなんだ尾上の古典舞踊を芯から研修し、民俗芸能をもまなんで、少なくとも畑さんの前にそれを自己報告出来るまでに、自身をみがく要があります。何人でもそういう人が出て、互いに競い合い、その緊張感の中で自分を鍛え、会員・子弟を指導してほしいと願います。見たところ、菊の会のみなさんは仲がよい。わいわい学生気分です。日常生活ではそれはすばらしく、相互の寛容と謙譲は美德ですが、しかし、稽古の場ではそれは禁物。個々がライバルとなって峻烈厳格な修練・教習に徹しなければなりません。「厳しきこそ開花への道」。そのことを骨の髄まで恩師畑先生から叩き込まれた菊の会のみなさんですから、お釈迦様に説法かもしれません。でも、一言願っておきます。



継がれた輝き

ここ一年は、前にも増して「菊の会」の公演に足をはこんできた。前代表の道代先生の存在があまりにも大きかっただけに、先生がいなくて大丈夫なのだろうか、やっつけていけるのだろうかという心配からだった。先生に親しくしていただいた応援団の一人として、それは、とてもとても気がかりなことだったからだ。



芸能研究家
北瀨喜久

でも、「菊の会」の踊りは、以前よりもっと輝いて見えた。道代先生という大きな輝きがなくなつたかわりに、それぞれの踊り手の小さな輝きが、きらきら、きらきらいくつも輝いて見えた。道代先生の踊りへの熱い思いが、それぞれのところに、からだに受けつがれ、それぞれの個性を持った、独自の輝きを放っているの



「土踏」より、老人役の枝木茂さんと孫役の枝木豊君



リーの拡充が必要だと思ふ。特に古典作品のレパートリーを増やしたい。そう思っていたら、このたび畑聡新代表をはじめ五人の男性幹部が、尾上流の名取となつたと伺つた。尾上流家元の御協力をえて、この面での拡充がなされることを切に願っている。又、こんなことを書くと、三隅先生にしかれそうだが、三隅先生にもうひと踏ん張りしてもらつて、新しい作品を書いていただけたらと思う。それが道代先生への何よりのたむけになり、新生「菊の会」への何よりのはなむけになると思う。



菊の会友の会
会長 菊地 宏

「日本の伝統文化を 伝え残すために」



日頃は菊の会のために温かいご支援ご協力を賜り心から厚く御礼を申し上げます。次第でございます。本場に有難うございます。

前代表の畑道代先生が他界されて満一年を経過いたしました八月二十八日、震災のため延期されておりました納骨を群馬県の「はるな平和墓苑」にバス四台を連ね一四七名で参りまして

無事に済まさせて頂きました。菊の会を今日まで育て上げ、築き上げて来られた偉大な畑道代先生の想いを、その情熱を偲びながら畑道代先生の永遠のご冥福をお祈り申し上げて参りました。

そしてその翌日、命日でありました八月二十九日には国立劇場におきまして開催された三代目尾上菊之丞襲名披露舞踊会において畑聡新代表が二代目尾上菊乃里として、また、草創期からのメンバー佐竹永光さんは尾上鷹乃里として、鶴岡泰重さんは尾上菊乃重として、枝木茂さんは尾上菊寅として、また、竹田秀晴さんは尾上菊竹として舞台に立たれ立派な舞台姿をご

披露されました。誠に御めどうございました。それから明年二月二十二日、菊の会四十周年の早春、中野ゼロホールにおいて友の会が中心になって記念公演を開催することになりました。つきましては何卒多くの皆様方のご来場をお待ち申し上げております。

世界の国々における公演もことごとく大成功を納め、世界中の人々に感動をあたえ続けているこの菊の会の舞台芸術の素晴らしさを一人でも多くの人々に観て頂き、この感動を味わっていただきたいものと考えております。

そして何としてもこの日本の伝統文化の素晴らしさを後世に伝え残して行



常磐津「京人形」

かなければならないと考えている次第でございます。

更なる発展を目指す菊の会のためにどうか今後共、ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。



萩江節「四季の米」



大和楽「蝶」



清元「流星」

「悲しみを 新生のエネルギーに変えて」



舞踊評論家
佐々木 涼子

今年のさつき会は、観る側にも格別の想いがあった。大黒柱だった畑道代先生の高邁な理念がどう受け継がれていくのか、それが示されるまさに正念場の舞台だったからだ。
一抹の不安はしかし、幕が上がったとたん吹き飛んだ。何という凄刺たる意気込み、清新な気が漲っていたことか。大きな悲しみを前進のエネルギーに変

畑道代先生が



作・演出の三隅治雄先生の厳しくも温かい叱咤激励に、一段と熱の籠もった稽古が続く(さつき会より)

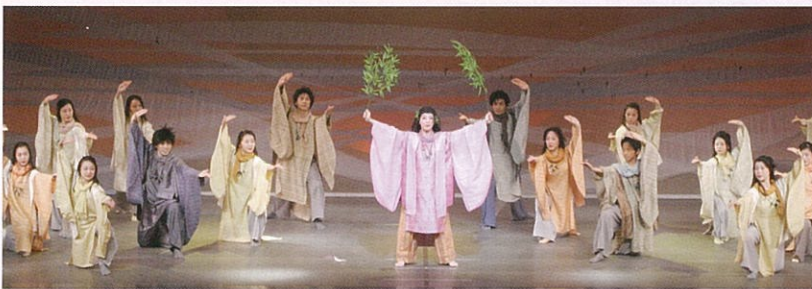
だろう。あるいは、ずっと前から輝いていたのに、大きな輝きばかりに目がいつていた私が、気づかなかつただけなのかも知れないのだが、一人一人の踊りから「しっかりやらなきゃ」という熱いものが発散されている。特に幹部の方々からはオーラに近いものが感じられて、圧倒されてしまった。こうした個々の思いの集積が、これからの「菊の会」の発展の原動力となっていくのであろう。
当面は、道代先生の遺された遺産のしっかりとした継承が大切だが、さらなる発展のためには、レパート



「土踏・波踏・舞踏」土踏のラストシーン



え、全員が心をひとつに頑張っている。それが直に伝わってきた。
第一部は素踊りの古典舞踊四曲をつないだものだが、趣の異なる演目の取り合わせがとても良い。また見せ場を選んで凝縮したもの、日本舞踊になじみの薄い一般観客を飽きさせないための菊の会ならではの工夫だろう。
とはいえ芸の水準は非常に高く、見応えがあった。長唄「連獅子」は端正な親獅子(佐竹永光)が元氣いっばいの仔獅子(佐竹光一)を見守り、抑制の利いた慈愛が深い感銘を呼ぶ。次の大和楽「蝶」(栗林麗子、黒岩瞳、喜多村英子)は振袖姿の三人が薄明のなか影絵のように浮かび上がり、春らしい優美な香りをふりまいた。萩江節「四季の米」では武井則男と御殿女中ふう拵えの高安喜代美が低く腰を入れ、日本舞踊ならではの奥ゆかしい情感を表現。最後の清元「流星」は飯田栄志がユーモラスに大活躍して会場を湧かせた。



「土踏波踏舞踏」の舞踏のラストシーン

第二部は民族舞踊詩「土踏・波踏・舞踏」。三隅治雄作・演出、畑道代振付の本作はもはや菊の会の重要なレパートリーである。
第一景では土に生きる農村の老若男女を登場させ、第二景は漁村の自然と恋人たち、第三景は「古事記」に拠って、原初の混沌から生まれる神々と精霊の世界を描く。第一、第二景には民俗舞踊もあり、現代にも通じる話だから、冒頭に第三景の太古を置くほうが時の流れが自然になるのではないか。また第三景の振付は現代舞踊ふうで面白いが、少し手直しするとぐんと見応えが増すはずだ。
若い人たちの活躍が目立つのも頼もしい。喪失は時に大いなる新生の源になる。菊の会の将来に期待したい。
(五月二十二日、サンパール荒川)

菊の会が中国成都にて公演!!

7月に全日空の成都間就航記念式典が中国成都の錦江賓館にて行われ、全日空の役員そして重慶日本総領事他大勢の御来賓の方が見え盛大に行われた。オープニングには菊の会による『祝い太鼓』そしてメインのステージでは女性舞踊手による華やかな『寿菊三番叟』と男性舞踊手による勇壮な歌舞伎舞踊『石橋』を披露。会場からは感激冷めやらぬ拍手と感嘆の声、主催者も大変喜んで下さり、大盛況で幕を閉じた。また同日、関連イベント特設ステージにおいては獅子舞や太鼓、そして民謡集を披露した。生演奏の祭囃しの音



「寿菊三番叟」



成都公演に臨む菊の会メンバー

なイベントとなった。日本の美・日本人の心を舞台狭しと存分にお届けした。



「石橋」

に乗せ獅子が練り歩き、物珍しさにあつという間に人の壁。最上階まで吹き抜けのステージでは、各階から覗き込むお客様と満員の客席とで爆発的



ブラジルのサンパウロ日本人学校の生徒さんと共に

COFFEE BREAK 可能性を信じて

天舞グループ4期生
工藤華奈子

先日読んだ「つなみ」(被災地のこども80人の作文集)の中に、学校公演で出会った宮城県南気仙沼小学校、貞山小学校の子供たちの作文が載っていました。胸が詰まるほど怖く悲しい思い、壮絶な体験をしたにも関わらず、沢山の人のお陰でそれを必死で乗り越え、感謝や希望の言葉を書く子供たちの未来に向かう力強さに心を打たれました。

近年、菊の会は文化庁事業の学校公演に採択され、南は熊本、長崎、北は北海道、東北の小中学校等に行かれています。昨年は南気仙沼小学校や貞山小学校をはじめ、被災地の公演も行つて参りました。生まれて初めて日本のおどりにふれる子供、準公演メンバーを経て今、

先日読んだ「つなみ」(被災地のこども80人の作文集)の中に、学校公演で出会った宮城県南気仙沼小学校、貞山小学校の子供たちの作文が載っていました。胸が詰まるほど怖く悲しい思い、壮絶な体験をしたにも関わらず、沢山の人のお陰でそれを必死で乗り越え、感謝や希望の言葉を書く子供たちの未来に向かう力強さに心を打たれました。



畑道代前代表の教えるを受ける華奈子さん(左)

もたちも多く、自然と踊り出す姿や笑顔を開延で見ることが、子供たちの希望に少しでもつながっているのら、こんな嬉しいことはないと思えました。またその為に自分自身の芸を磨いていかななくては、とも思います。出身地である茨城県鹿嶋市のお教室から菊の会の研究

舞台上に立たせて頂いて論は、以前、幼稚園教諭という立場で毎日子供たちの保育に携わって来ました。今まで沢山の教育現場の先生に出会ってきましたが、故・畑道代先生との出会いは私の人生にとって大きな転機となりました。



小さい頃からの夢だった幼稚園の先生を何の迷いも無く退職し、畑道代先生についてきました。今思うと不思議にも、踊りを通して子供さんの育成にも関わることが出来ていました。私にできること、自分の可能性を信じて下さった畑道代先生への感謝の気持ち忘れずにこれからも精一杯精進して参ります。

14歳より畑道代に師事
2001年 創価女子短期大学卒業後、専門学校を経て幼稚園教諭として勤務
2007年 「ブラジル公演」参加
2009年 文化庁「優れた舞台芸術体験事業」学校公演に参加
2010年 「トルコ・オマーン公演」参加

Information 菊の会公演予定

チケット好評発売中!!

舞踊劇「カッチャ行かねかこの道を」



【日本のおどり～畑道代を偲んで～】

10月4日(火) 浅草公会堂(東京都台東区)
時間/15:00開演
前売料金/指定席7,000円 自由席5,000円

【菊の会公演 舞踊劇～カッチャ行かねかこの道を～】

11月16日(水) タワーホール船堀(東京都江戸川区) 14:30/18:30 開演
20日(日) 鹿嶋勤労文化会館(茨城県) 15:00 開演
27日(日) 横浜関内ホール(神奈川県) 15:00 開演
29日(火) キラリ☆ふじみ(埼玉県) 14:30/18:30 開演
入場料: 前売料金/指定席6,000円・自由席5,000円

【民音主催「舞踊集団菊の会」山梨公演】

12月4日(日) コラニー文化ホール大ホール(山梨県立県民文化ホール)
時間/15:00開演
前売料金/S席5,000円・A席4,500円
MIN-ON インフォメーションセンター: Tel 03-3226-9999

沖永良部島初公演【日本のおどり】～南国に舞う～

12月12日(月) 鹿児島県おきえらぶ文化ホールあしびの郷・ちな
時間/18:00開演
料金/一般2,000円 高校生以下1,000円

舞踊集団「菊の会」創立40周年記念公演

【日本のおどり】～創立40周年寿ぎの舞い～
2012年2月22日(水) なかのZEROホール大ホール
時間/15:00開演
入場料: 前売料金/指定席6,000円・自由席5,000円

※上記の日程は予定ですのでご確認の上御来場下さい。
お問い合わせ: 菊の会事務局 03-5983-6001